

## 出雲市地域福祉計画・地域福祉活動計画地域ヒアリング結果について

## 1. 目的

地域課題の解決に向けて活動を行っている団体等にヒアリングを実施し、地域における現状の把握や課題の解決に向けた方策について検討する。

結果については、次期計画への反映に向けた検討材料として活用する。

## 2. 訪問団体数

・たすけあい活動団体	活動団体 17 団体	うち訪問団体	4 団体
・子ども食堂	活動団体 21 団体	うち訪問団体	4 団体
・ボランティア団体	活動団体 8 団体	うち訪問団体	2 団体
(※活動団体数は R5.4 時点)			

## 3. 訪問団体

区 分	団体名	訪問日	参加人数 (事務局含む)
たすけあい活動団体	なないろネット	7月21日	8人
	たすけあい平田	7月24日	11人
	ひえばらお助けマン	7月28日	7人
	おたがいさまいずも	8月8日	11人
子ども食堂	輪や和や食堂	9月7日	8人
	交縁食堂	9月10日	6人
	地球食堂	9月21日	8人
	わくわく食堂	9月27日	10人
ボランティア団体	MANABIYA	9月17日	6人
	てごほ〜む	10月7日	6人

#### 4. 課題の整理

##### たすけあい活動団体

###### ① 継続的な活動を踏まえた担い手の確保

- ・活動者の高齢化

→若い世代への広報にあわせ、島根県立大学や専門学校等の地元学生等に対しての周知方法について検討

###### ② 運営資金の確保

- ・財源（利用料・寄附金）が限られており、利用料の値上げも利用者の負担増につながる。

###### ③ その他

- ・民生委員・自治協会への周知・連携
- ・利用者移送のリスクが高い

##### こども食堂

###### ① 継続的な活動を踏まえた担い手の確保

- ・組織内で中心となる人材の育成

→リーダー研修や協力者募集の広報、情報共有や人材育成の手法について検討

###### ② 運営資金（食材）の確保

- ・助成金の情報提供や申請のサポート
- ・食材提供の協力

生鮮食品は寄附が少なく、購入すると赤字となる。

→食品ロス削減協力店舗等との連携体制の構築

###### ③ 他団体との連携

- ・相互連携の拡充

地域に開けた活動として学生や地域のボランティア組織等との連携が必要

##### ボランティア団体

###### ① 活動場所の確保（公共施設を利用する場合に利用料が発生する。）

- ・居場所設置に向けた行政からの支援（助成金、減免等）

###### ② その他

- ・既存のつながりを重視したボランティア活動以外にも、さまざまなチャンネルを活用した連携や協力が必要。
- ・学生による地域活動支援の組織化（例：子ども食堂へのボランティア派遣等）

《参考》聞き取り内容（区分別）

区 分	課 題	今後の展望
たすけ あい活 動団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動者の確保（活動者の高齢化）</li> <li>→県立大学や専門学校とのつながるといい。高校生の JRC 部も参加してほしいが、有償のボランティアであることから断われたこともある。</li> <li>→まず若い世代に活動を知ってもらうことが必要。</li> <li>・活動資金の確保（母体がないと経営が厳しい）</li> <li>→他市町村では基金を募るところもある。</li> <li>→助成金もさまざまなもの（農水省・総務省）の利用も検討。</li> <li>→市内全団体を対象にするのが難しければ、公募によるモデル事業から実施してはどうか。</li> <li>・地域住民の危機感がない（いずれ必要になるが、今必要ではないためイメージできない）。いかに住民巻き込んでいくか。</li> <li>・民生委員・自治協会との連携。</li> <li>→民生委員は支援が必要な世帯の情報を持っているが、守秘義務があり連携が難しい。地域全体の課題として捉え、自治協会も含め、地域全体で考えていきたい。</li> <li>・移送については、リスクが高く、地区特性を念頭に行政の将来的な構想等計画が必要ではないか。移送支援は今後必ず必要になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、他団体と一緒に進めていきたい。たすけあい団体の横のつながりを強化し、援助も分担していけるといい。</li> <li>・「居場所」のような使い方でボランティアするのもいい。</li> <li>・福祉だけでなく、異業種での広がりが必要。きっかけのない人に発信していく。</li> <li>→スポーツ振興 21 等福祉関係ではなく、元気な人を取り込んでいけるといい。まずはチラシを配布してみる。</li> <li>・協力会員は女性が多い。ボランティアをする方は女性が多い（口コミや個人的な誘いからの参加が多い）。男性にも参加してほしい。</li> <li>・募集も含め情報を行政や社協等からもっと発信していく。ホームページだけでは高齢者は分からない。さまざまな場でのチラシの配布できるといい。</li> </ul>
子 ども 食 堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂が増えるのはいいが、衛生面が心配（県立大学より）。</li> <li>→県立大学は衛生面も専門なので研修会ができたらいいい。</li> <li>・開催日を増やしたいが、代表なしでは開催が難しい。リーダーの育成が必要（交縁食堂）</li> <li>→リーダー研修会の開催（社協）</li> <li>→四絡コミセンの広報の子ども食堂開催チラシに協力者の募集も載せてはどうか。広く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立大学（地球食堂）は栄養面の専門なので、地域の子ども食堂と献立やレシピ等共有出来たらいい。</li> <li>・食堂の開催回数を経済的にも人間的にも増やすのは難しい。代わりに市内にもっと子ども食堂が増え、どこかに行けば子ども食堂が開催されている状態になるといい。</li> </ul>

<p>募るより地域から協力者ができるといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金の申請が難しく申請できていない。さまざまな助成金の制度があることを知らなかった。生鮮食品は寄付もなく、高額で購入が難しい。赤字になる。ボランティアは本当に無償でやっていただいている。交通費や謝礼をあげたいが、助成金の項目に制限がありできない。</li> </ul> <p>→社協職員が申請の手伝いをする。</p> <p>→市で何らかの補助はできないか。簡単に申請する仕組みはないか（例えば、他市町村であるが、一括で申請し分配するとか）。</p> <p>→営農組合で破棄予定のキャベツをキャベツ狩りに来ていただいたことがある。今後、破棄予定の野菜があれば寄付したいが、どこに連絡すればいいか。そういったシステムがあるといい。</p> <p>→出雲市には食品ロス削減協力店舗が160くらいある。子ども食堂の開催日や連絡先が事前に情報共有できていれば、廃棄予定の食品を寄付することができ店舗側もいいはず。そういった仕組みが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心部は畑が少なく、野菜の寄付が少ないところもある。</li> </ul> <p>→農家に寄付について周知できるといい。社協に寄付があった場合はチャットでよびかけしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等行なう際は他のボランティアとの連携が必要。</li> </ul> <p>→県立大学の学生と連携できるといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂＝貧困のイメージがまだある。地域の交流の場となつてほしい。</li> </ul> <p>→出雲市は他市町村に比べ、子ども食堂の数が多く、勢いがある。出雲市独自のネーミングを考えてはどうか。もっとアピールしたほうがいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者にも利用いただきたいが、コミセンまでの移動手段がないとの声があった。弁当</li> </ul>	<p>い。各コミセンに一つくらいあるといい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コミセンで開催されるといいが、その際足りないところに関しては社会福祉法人でも何か協力できないか。各施設の管理栄養士のレシピの提供など。</li> </ul> <p>→社協が事務局である社会福祉法人連絡協議会で子ども食堂の研修会を行い、ネットワークを構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付いただいた方にお礼の声を届けたい。</li> <li>・子どもだけでなく、高齢者も利用できるといい。その場合は申し込みの検討必要か（LINEでの申し込みが多いが、高齢者は難しい）。</li> <li>・不登校の親子の参加があった。こういった子の居場所となるといい。</li> <li>・学童や放課後子ども教室は食事の提供はできないので、これらと子ども食堂を一緒に開催してはどうか。みんなが利用できる。</li> </ul> <p>→市から社協に放課後子ども教室のリスト提供。近くの子ども食堂と仲介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問が難しい場合に、自宅訪問のツールとして子ども食堂を利用してはどうか。今後さまざまな機関と連携し、ツールとして活用できればいい。</li> </ul>
--	--

	<p>の配達も提案したが、個人情報の問題から住所は聞けなかった。民生委員さんとも連携できたらいい。</p>	
ボラン ティア 団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所へ「高校へ行きたい」と相談に行く と「日本語ができないとムリだよ」と相談を 断られた子がいる。それで終わりではなく 「日本語教室に通ってみたら？」と紹介したり、 違う部署や相談機関につなげたりしてほしい。</li> <li>・外国ルーツの方達で集まる場がない。(日 本人はルールに厳しく利用できない場合がある)</li> <li>・学校では日本語が話せたら、通常学級在籍 となるが、読み書きはできないので、授業内 容が分からない状態のまま過ごしている子 がいる。どうしていけばいいのか。</li> <li>・医学部の学生だけの活動なので、大学の試 験や実習が重なると開催できない時もある。 →他の大学と一緒に活動するよりは大学ご とに活動し、活動場所が増えていくといい。 多くの子に知ってもらいたい、少人数が落 ち着く子やオンラインでの参加が精いっぱい の子もいるため、活動場所が増えていくと いいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のイベントのボランティア をしたことにより、地域の方との 関わりがうまれることもある。地 域イベントのボランティア募集は つながりのきっかけになっている。</li> <li>・大学生など若い世代だと大人と いうカベがなく、悩みも話しやす い。</li> <li>・不登校の子のための居場所とな ると行きにくさがある。また、コ ミセンだと地域の人がたくさん集 まるイメージで行きにくい子もい る。塩冶神社のような隠れ家的な 場所が使用できるのはいい。そん な場所が増えるといい。</li> </ul>